

九十代を生きる 二〇一九年六月

いよいよ九十歳代に入る。要介護や認知症が四割以上占める年代だが、幸い炊事、洗濯、買い物などをしながら一人暮らしが出来ている。

二〇一九年六月十六日、ホールで「久保孝雄さんの卒寿を祝う会」が開かれた。呼び掛け人・平尾光司、室谷千英、三浦淳、内田裕久。参加者八十七名。

一百（いっぴやく）の友集いけり卒寿の会 われ感動し白寿を誓う

次々にスピーチの友ら見つめつつ これすばらしき生前葬と観ず

はるばると京都より来たる友髪白く しわ深くして苦勞にじめり

娘との中口民謡二重唱 歌いきつたり原語交じえて

（伴奏は中華街に住む中国人ピアニスト王銀鈴さん）

伊歌劇の「父へ」のアリア熱唱の 娘の声を深く聴き入る

孫たちの挨拶花束受け取りて 忘れがたき日今終わるなり